

## 第1回検討委員会における主な意見等（概要）

### 検討項目について

子どもの進学幅が広がるのはうれしいが、その先の受け入れ体制がどのようになっているのか。県外の学校に行っても、県内に戻ってこられるような就職先がしっかりしていないと、進学先も考えられない。県内企業にがんばっていただき、学生を引っばっていただきたい。

高専の学生は、15歳で日本の科学技術分野を支えていこうとする決意をもっており、意欲も高く非常に優秀である。また、高専教育は、世界で評価されている寄宿舎を含め、非常に優れている。一方で、高専が大学の予備校化をしているという部分もある。

今までの教育は、技能者（テクニシャン）の教育と技術者（エンジニア）の教育に分かれており、高専はその中間である非常に高度な技能者あるいは技術開発も提案できる人材として期待されていた部分がある。工業高校は、どちらかという優秀な技能者の教育を担ってきており、そこをうまく接続するというのは非常に大きな転換で、単に工業高校と産業技術短期大学校をつないだものが高専になるとは思えない。

人材育成と就職は、密接につながっている。山梨県は下請産業が多いが、出荷額の7割を占める機械・電子産業は、山梨県を支える非常に重要な産業であると考えていただきたい。優秀な人材を普段から確保していかないと、企業が存続していかない。山梨県は、人材に外へ逃げられないような企業を育成しないといけない。卒業生がいても、勤めるところがなければ外に出ていってしまう。

高専をつくれればよいのか、それとも現状のものをきちんとしていけばよいのか、ということを検証しながら、次のステップへいくべきと考えている。

生産現場の軸となるような技術者は、特に、工業高校が非常に活躍している印象があるが、これをさらに育成するなどして、工業高校と大学の間のより高度な技術者が求められるのではないかと。

### ニーズ調査について

これから実施する企業への調査は、とてもありがたい。

これから実施する企業への調査については、単に「何社」というようなまとめ方ではなく、規模別とか業種別とか、もう少し細かい集計をしていただければありがたいと思う。